

取扱高は管内24JAの見込み額合計で、JA以外の商社の扱う金額は含んでいない。これまでの過去最高は17年の3388億円だった。

◆十勝の食料自給率1240% 収量増で108ポイント上昇

フードバレーとかち推進協議会は25日、2019年の十勝の食料自給率がカロリーベースで1240%になったと発表した。前年から108ポイント上昇した。

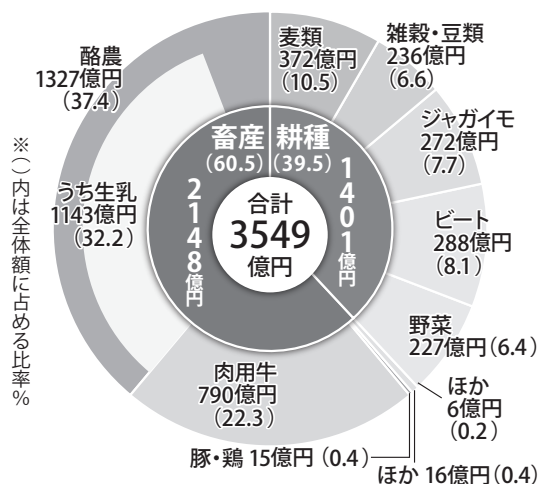
十勝の生産力の指標とし、対外的なPRにも活用するため積算している。農畜産物の生産量をカロリー換算し、管内住民のカロリー摂取量で割って算出した。

19年産の農畜産物の生産量（推計）は前年比8%増の約456万トン、耕種は10%増の323.4万トン、畜産は3%増の132.4万トン。これに対し管内人口は0.4%減の33万7407人だった。

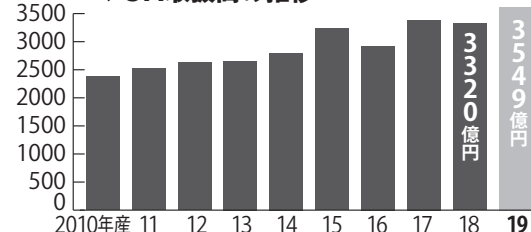
自給率が前年を上回ったのは、カロリーの高い小麦や豆類、ジャガイモの収量が伸びたのが要因となっている。

会長の米沢則寿帯広市長は「改めて十勝農業の力強さを実感した。農業のさらなる成長を支え、食の付加価値向上や魅力発信を地域一帯となって進めたい」と述べた。

◆2019年産 管内24JAの取扱高



◆JA取扱高の推移



香港へ牛肉輸出認可 畜産公社十勝工場 道内初 アジア販路を拡大

2020年1月13日

道畜産公社十勝工場（帯広市西24北2）の第3工場が、牛肉の香港輸出が可能な施設として道内では初めて、日本・香港両政府から認可を受けた。昨夏から道内施設として唯一輸出できるようになった米国に加え、需要が伸びるアジア圏にも道産牛肉を売り込む体制を整える。

昨年10月に厚生労働省から認可が下り、12月に香港政府から輸出許可に関する登録が完了したと報告を受けた。認可は国内では13カ所目、道内では初めて。現在ホクレンが出荷に向けて調整している。

経済成長するアジア圏は、道産牛肉の需要が伸びている。同公社は、生産者からの要望もあって、香港への輸出に向けて昨年8月ごろから申請作業を進めていた。道内では香港の認可を受けた施設がなく、これまでは岩手県まで運んで出荷する必要があった。昨年、ホクレンで取り扱った香港向けの十勝産牛肉は19.12トン、金額は

約6000万円。第3工場では現在、シンガポールや台湾向けの認可も目指している。

第3工場は2016年3月に完成し、牛のと畜処理能力は1日100頭（加工は70頭）。昨年5月末に米国輸出が認められ、7月の初出荷から12月まで月1回ペースで、計1384キロ分を送った。

十勝工場の坂本利之工場長は「販路拡大により、道の畜産振興に貢献することができる」と話している。十勝工場では第2工場でも、シンガポール、タイ、ベトナム、台湾向けに牛肉を輸出している。